



VANCOUVER
HERITAGE
FOUNDATION

日系カナダ人地区 史跡めぐり

パウエル街
街歩きガイド



バンクーバー市 日系カナダ人街 史跡



Katelyn Yuen, Satsuki-kai odori, PSF: 2017

パウエル通り地区には、日系人とのユニークな歴史的な繋がりが 있습니다。地区はパウエル街 (Paueru-gai) と呼ばれ、パウエル通りの名前から由来しています。ここは常に文化的に多様な地域でありましたが、中でも日系カナダ人は、1890年代から大多数の民族グループを構成していました。それはカナダ政府がコミュニティ全体を強制的に撤去した1942年までの間続きました。



CVA 300 - 136

このガイドの使い方

このマップガイドには、今もパウエル通りに存在する日系カナダ人の歴史上で重要な歴史的建造物や場所に焦点をあてています。取り上げた場所は番号をつけて名所めぐりの一例としておりますが、好きなように辿ってくださって構いません。完全なウォーキングツアーはガスタウン、チャイナタウン、ストラスコナエリアから1~2時間程度です。

初期

1890年代には大規模な日系カナダ人社会が作られてきました。近くのヘイスティングス工場の職場がある事と、個人に対して鉄道や遠隔林業における仕事を斡旋する労働者仲介人がいたことによります。1908年に日本人男性に移民制限が課されたにもかかわらず、男性は家族や後ろ盾を持った労働者をカナダに送ることができ、そこには多くの「写真の花嫁」たち、つまりはお見合い結婚の延長線上にある女性も入っていました。これは代理結婚であり、しばしば写真だけが交換されました。

多くの新しい日本人移民は、林業、漁業、鉱業、農業、缶詰業で働いていました。雇用を確保するためには、非アジア人よりも低い賃金で働かざるをえず、それがひいては他の民族の雇用を奪う形になり、また、一般住民における既存の人種差別主義の感情を養う要因にもなりました。その敵意は1907年にチャイナタウンからパウエル街にかけての地区において反アジア暴動の形で勃発し、多くの商店に損害をもたらしました。

差別があつたにもかかわらずコミュニティは成長を続け、1921年までに578の日本の企業や団体がパウエル通りで繁栄しました。日系カナダ人は、地域の必要とする店舗、風呂屋、寄宿舍、レストランを提供しました。その時設立された文化機関には、バンクーバー日本語学校、バンクーバー仏教寺院、その他様々な武道クラブがあります。

NNM, courtesy Kitagawa family, 1930



バンクーバー朝日

1914年にバンクーバーにて設立されたバンクーバー朝日野球チームは日系カナダ人社会の誇りでした。パウエル通りの敷地(現在はオープンハイマーパークとして知られています: Stop 11を参照)を拠点に、朝日メンバーは太平洋北西部における商業リーグとして対戦する、セミプロチームでした。チームは沢山の支持を得て、あるファンは『朝日が戦いだすと、どんな困難だって飛び越えるんだ』と思い出を熱く語ります。朝日の試合日にはパウエル通りの商店はすべて閉まり、また、多くの商店は朝日の為の商品を提供しました。バンクーバー朝日の活躍のすばらしさはBCスポーツ栄誉殿堂およびカナダ野球栄誉殿堂入りしたことでわかります。

1950年代には、日本の食料品や雑貨を販売する店舗がいくつか戻り始め、レストランもでき、そしてなんと316パウエル通りのライオンホテルのメインフロアには賭博クラブまでもが出現しました。バンクーバー日本語学校や日本人会館(14番参照)、バンクーバー仏教寺院(13番参照)など、いくつかの主要文化機関も再オープンしました。

100周年を迎えて

パウエル通りの日本地区を含むダウンタウン東地区(DTES)は、1950年代半ばから1970年代半ばにかけて減少期を迎えました。地域の活性化のため、草の根活動が近隣改善計画の助成金を確保するのに一役買いました。

1977年、日系カナダ人コミュニティはカナダへの最初の移民・永野万蔵氏から数えて100年が経ったことを記念し、祝いました。これは、新たなコミュニティ精神に火をつけ、日系カナダ人市民協会が活動を始めるときかけとなりました。彼らはパウエル通りの374-378号の敷地を購入し、敷地内の朽ち果てたホテルを改装し、高齢者用住宅さくら荘を開設しました。

ブライアン・ムルロニー首相率いるカナダ政府は、リドレス運動(救済要請)に応じて、1988年9月22日に賠償決済することを発表しました。和解内容として、第二次世界大戦中およびその後の日系カナダ人の不当な扱いを認め、戦争措置法による影響を受けた人々にそれぞれ21,000ドルを支払うことが示されました。

1977年には、パウエル・ストリート・フェスティバルが始まりました。これは、武道、太鼓、アマチュア相撲トーナメント、工芸品、伝統的な展示会、日本食を通じて、日本とアジアの文化を毎年祝うもので、大変人気のある祭りです。この祭りによって地元のコミュニティは結束し、活発な日系カナダ人文化の発展を続けています。

パウエル街はもはや日系カナダ人にとっての文化の中心地ではありませんが、暖かい記憶の残るNatsukashii(懐かしい)場所とみなされています。DTESは、ここ数十年の間に多くの変化を遂げてきましたが、経済的に多様で文化的に豊かな地域であり



1



STOP 1: KOMURA BUILDING

269 POWELL ST (1905)

Powell Streetの200ブロックには2つの歴史的建造物しか残っていませんが、ここが日系カナダ人のコミュニティが始まり、輝きを放った場所です。日本の移民が最初に購入した土地は、1898年頃に230パウエル通りにありました。269パウエル通りの建物は、1905年にGeorge Stevensのために建てられた初期のエドワードリアン調の角物件で、1906年にKomura Bros. General Storeとしてオープンしました。ヒャクジロウ・コムラは1911年にテナントから建物所有者になりました。おそらく、成長し成功しているビジネスの証であったことでしょう。コムラ・ブラザーズ・ジェネラル・ストアは、1941年にコミュニティが強制的に廃止されるまで、この地域で活発に活動し、最も長く続いた日系カナダ人企業の1つです。KOMURAの名前がついたモザイクの床タイル入り口が、当時の風情を偲ばせます。

2



STOP 2: SW CORNER OF ALEXANDER ST & GORE AVE

MAIKAWA NIPPON AUTO SUPPLY

298 ALEXANDER ST (1926)

日本オートサプライガレージは、5人兄弟のうち一人マイカワ・サダキチが運営していました。他の4人の兄弟は、マイカワ・フジ・チョプスイ・レストランやマイカワ魚店といった、バンクーバーのビジネスを多く所有していました。サダキチは1913年に馬の代わりに自動車を使って交通事業を開始しました。1926年には、当時自動車業界の中で最大のガレージと倉庫を持つ日本オートサプライに成長しました。建物は最近改装されましたが、当時の面影はまだ残っています。



VANCOUVER GIRLS' SCHOOL OF PRACTICAL ARTS

302 ALEXANDER ST (1922)

通りの向こう側には、1930年代に設立された女性用職業訓練校Vancouver Girls School of Practical Artsがあります。1936年から1942年にかけて302アレクサンダー通りに開校していました。同様の学校やインストラクターはバンクーバーに集中していましたが、ミッションやステ

ィーブストンなど他の地域でも運営されていました。バンクーバー女子職業訓練校の他、女性用裁縫学院、マツザキ服飾学院、マリエッタ衣装デザイン学院、国内芸術アカデミー学院がありました。これらの学校は包括的で個別的な指導を行い、卒業時生徒は卒業証書を授与されていました。



AOKI ROOMS

313 ALEXANDER ST
(1898)

このテナント・ビルディングは、初期の日本人バンクーバー入植者が建てた建物の典型的なものです。オーナーのアオキ・ヨネキチはインディアン・リバーで1895年に伐採を開始し、その後DunlevyのふもとにあるBurrard InletのHastings Sawmillで働きました。やがて彼はカナダ太平洋鉄道の請負業者に昇格しました。バンクーバーに新しく到着し、就職を希望する日本

の労働者達は、宿泊のためにアオキ・ヨネキチを頼るだけでなく、林業伐採業の働き手の情報、その他様々な労働者の雇用情報、国内外の航空券の取扱い、領事館とのやり取りについても頼りにしました。ヨネキチの息子、ジョージ・タメオ・アオキも、朝日野球チームの選手として地域社会で有名になっていきました。



STOP 3: NE CORNER OF POWELL ST & GORE AVE
SUNRISE MARKET
 300 POWELL ST (1964)

現在のサンライズマーケットは、多くの日本の専門店の集まりだった場所に建っています。1920年には、ここではスズキ青果酒店でした。1936年には、ヤマモト青果店とカワサキ製菓会社がこの住所に入り、後者はまんじゅう、餅、砂糖漬けショウガなどのお菓子やスナック食品を販売しました。1960年代以降、中国系カナダ人所有のサンライズ・マーケットがコミュニティに貢献してきました。今ではカナダ最大の豆腐メーカーであるSunrise Soya Foodsの始まりは、ここでした。



FUJI CHOP SUEY
 314 POWELL ST (1931)

1931年に建てられた中国式にカリフォルニアスタイルの影響を残すこの建物には、日本式の中華料理を提供するフジ・チョップスイ・レストランがありました。1920年代後半には、伝統的なイギリスデザインを元に新しくしたもの、オランダ風、スペイン風のデザインなどの、リバイバルスタイルの建物を設計する傾向がありました。バンクーバーの日系人コミュニティは、その傾向に調和し、非伝統的な建築や、フュージョン料理、現代的なスタイルで大胆に冒険

しました。この建物は、カリフォルニアミッションスタイルの屋根、テラコッタの屋根瓦、装飾的なアップリケを備えた中国式の色味を誇るチャーミングなハイブリッドです。

1936年に設立されたササキ・イチイとワカバヤシ氏が創業したフジ・チョップスイ・レストランは、日系カナダ人家族が行くことができた数少ないレストランの1つで、宴会や結婚式の場としてもおしゃれな場所でした。他のほとんどの地元レストランは男性用で、近隣のレストラン以外の多くのレストランはアジア人には開かれていませんでした。強制疎開中、パウエル通りのこの建物はブリティッシュコロンビア州保安委員会によって「敵国人」を登録するために使用されました。



4

STOP 4: MORIMOTO & CO. DRY GOODS 326-328 POWELL ST (1912)

この複合用途の建物の最初のテナントは、路面店の和風喫茶、上層階の賃貸部屋、地下はカネ射撃ギャラリーでした。長年に渡って、賃貸物件の名称はStanley Rooms、King Roomsと変更され、現在も引き続き宿泊施設となっています。喫茶店は山内、森本、東山と複数の日本人オーナーを持つ乾物店に発展しました。U. Morimoto & Co.は2年間(1919-1921)しか店を賃貸していませんでしたが、現在でもタイル入り口にはまだMorimotoの名前が確認できます。この建物は、1920年代にはカナダ日本ソーシャル・アスレチック・クラブの住所でした。このブロックには、1階に小売スペースを持つ賃貸住宅が多く見られます。

日系カナダ人戦争記念碑



1920年4月2日、第一次世界大戦中のカナダ軍への日系カナダ人の参加を記念して、コミュニティー資金により日系カナダ人戦争記念碑がスタンレーパークに寄贈されました。これは、カナダ日本協会が建立したもので、彼らは1916年1月から5月にかけてバンクーバーで227人の兵士の訓練に資金を提供していました。彼らは戦争参加者であり命を落とした54人の男性たちを想うためのものです。その後、第二次世界大戦、朝鮮戦争、アフガン戦争で死亡した日系カナダ人の名前も石碑に加わりました。記念碑の上にある灯籠は、1942年にバンクーバーから日本のコミュニティーがなくなった時に消されましたが、1985年8月2日に再度点灯されました。毎年のリメンバンスデー(第一次世界大戦終結記念日)には参列する人も年々増えており、日系カナダ人の退役軍人の貢献は認められてきています。



STOP 5: HOTEL YEBISUYA
358 POWELL ST (1907)

この建物は、1907年にナカヤマ・ジンシロウのためにホテルとして建てられたものです。エドワード式コマーシャルベイウィンドウデザインは当時のバンクーバーの他の小売エリアの典型的なものであり、同様のデザインはメインストリートとコマーシャルドライブに沿って見るすることができます。ホテル・エビス屋は、サカキバラ家(1927~29)が運営していた当時は東洋ルームとしても知られ、新しい移民や季節労働者のための宿舎でした。路面店舗は、池田理容室、ナバタ靴店、肉屋、ビリヤード場など、さまざまな日系カナダ人企業によって占有されていました。この建物の裏にあるレーンハウスは、歴史的な住宅パターンの見本としても重要なものです。

LANE HOUSE

300 BLOCK BETWEEN POWELL ST & E CORDOVA ST
(1891)



358 Powell 通りの裏側にあるこのレーンハウスは、バンクーバーで最も古い建物のうちの一つです。街路間の小道は歴史的にみてもよく利用され、個々のサービス業の入ったビルを他のビルにくっつけつつ、表から裏へすべてが作られている場所もあります。

レーンは建物間の「吹き抜け (breezeways)」によってアクセスされ、通常は厩舎や倉庫、家屋、企業、野菜畑がありました。今日、多くの「吹き抜け」が埋まっており、残りの建物へのアクセスはほとんどがレーンからのものです。



STOP 6: S. SHIBUYA & CO. CLOTHING

374 POWELL ST (1912)

建築家ウィリアム・F・ガーディナーがオーナーDavid Sanguinetiの為に設計したこの建物は折衷的な用途が垣間見えます。ここでは、賃貸ルームとして有名だったSun Rooms (1913-1941)、Sun Theatre (1912-1918)、様々な軽工業、オフィスや小売業などがありました。1919年にナカザワ・ソノがオーナーになり、何度かの改装工事の後、彼女は自分の服飾店をこの建物に移転し、ウェスタンスタイルの衣服で若い「写真の花嫁」をスタイリングするのを助けてました。1963年、竹内アキがアキ・レストランをオープンしました。アキはバンクーバーで鮮魚を提供する最初のレストランで、戦後にパウエルストリートに戻った日本のビジネスのまれな例です。現在バンクーバーのコール・ハーバー (Coal Harbour) 地区にあるアキ・レストランはいまでも家族経営のビジネスです。現在では、H.A.V.E. (希望・行動・価値・倫理) カフェが、持続可能な料理プログラムを提供しています。



STOP 7: MAIKAWA DEPARTMENT STORE

365 POWELL ST (1908 & 1936)

1908年にオープンしたマイカワ百貨店は、すぐにパウエル通りで最大の商業施設になりました。マイカワ・トメキチ氏の4人の兄弟のうち二人も同時期にこの界隈に店舗をオープンしました。1930年代にはこの界隈の北側の大半をマイカワ家の家族経営が占めました。多くの下宿がそうであったように、従業員は店舗の2階に住み込み、家族は店舗の裏側に住んでいました。

1936年には、2つの区画が統合され、建築家T.L.Kerrによって設計された新しい店舗が建設されました。建築デザインは、豊かでスタイリッシュなコミュニティを反映しています(もともとの店舗はまだ表構えの後ろに残っています)。1930年代の経済不況の中で行われたこの店舗拡大は、差別的扱いをされているにもかかわらず日系カナダ人企業が成功していた事を実証しています。スタイリッシュな店舗名が表構えに残っているアールデコ様式の建築は、カナダと日本の最新のファッションや製品を販売していました。この店舗拡張で新しく行われた経営は、カナダ政府が没収する直前まで、5年近く続きました。

8



STOP 8: SECORD HOTEL

401 POWELL ST (1889)

Secord Hotelは1890年にAngus Secordによって開館しました。1917年から1930年まで、この建物はインペリアルホテルとしてホンダ・ヒヤクタロウが運営していました。1階にあったインペリアルビアパーラーは、カナダでの柔道創始者である佐々木繁孝が運営する柔道道場としても使われました。近所の子供たちは日本語学校に通い、夕食をとった後、柔道クラブで練習するのが日課でした。現在、この建物は女性支援の為の賃貸、Secord HousingとしてAtira Women's Resource Societyによって管理されています。もともとの外観は、馬小屋へつながる細い裏道へ続く、建物をぐるりと囲んでいるバルコニーが特徴的でした。



CVA AMS4-S4.: Hot P 85, c. 1890s



STOP 9: TAMURA BUILDING

398 POWELL ST (1912)

この壮大な4階建ての商業ビルは、建築家Townsend & Townsendが田村新吉にデザインしたものです。田村氏はカナダの最初の日本向け貿易担当官を務めた商人で、後に日本に帰国して政治的キャリアを築く人物です。建物の外観には、Quebec ManorやShaughnessy Manorのアパートなど、バンクーバーの他のTownsend & Townsendが手掛けたデザインと同じ、ユニークな板金の装飾や蛇腹模様、コリント式の石柱が施されています。ワールドホテルと名付けられたその名前とデザインは、コミュニティが北米文化へ一体化している事を反映しています。ここはパウエル通りの中心地として知られており、近所で最も重要な賃貸物件でした。薬局、ベーカリー、菓子店、玩具店、歯医者、仕立て屋、洋服屋、サーモン梱包作業服店、そして田村氏自身の手掛けるカナダ日本信託貯蓄銀行など、日系カナダ人の経営する多くの事業が1階から2階にかけて展開されていました。

JCNM 95.102, c. 1935



1938年、The New Canadian新聞がタムラビルに開設されました。最初の英語表記された日系の新聞では、「第二世代の声」というモットーを掲げていました。第二次世界大戦中、この新聞

だけが発行を許された日系カナダ人の新聞であり、強制疎開の期間中にはコミュニティにとって重要な情報源でした。2017年には、原型の板金要素、特に2つの顕著な足形装飾と3つの装飾壺を再建することを含む修復と復旧が完了しました。プレスされた金属の天井と金庫は元の銀行のスペースに復元され、店舗や入り口は改装され、元のデザインにほぼ完全に一致しています。



STOP 10: NW CORNER OF DUNLEVY AVE & E CORDOVA ST

SISTERS OF THE ATONEMENT MISSION

255 DUNLEVY AVE (1929)

フランシスカン・シスターズ・オブ・ザ・アトーンメントは、カトリックの日本のミッションスクールを開講する為に1926年にバンクーバーに到着し、1912年に設立され、カナダ初のミッションスクールとなりました。当初、コルドバ通りの賃貸部屋にて運営されていたこのミッションスクールは、1929年にこの建物に移転しました。そこでは、地域社会のための語学プログラム、幼稚園、託児所、医療クリニックが運営されていました。1942年、フランシスカン・シスターズは日系カナダ人コミュニティが強制的に撤廃されることに反対して政府に抗議しました。その抗議行動は無視されたので、シスターズは日本地区にある拠点を離れて、コミュニティの移動した収容キャンプ先に学校を設立することを決めました。学校は1949年まで続きました。フランシスカン・シスターズ・オブ・ザ・アトーンメントは、1993年までこの場所で運営し、託児所を開設、そして毎日何百人もの人々に食糧や衣服を提供し続けました。2011年、フランシスカン・シスターズ・オブ・ザ・アトーンメントはバンクーバー本部を閉鎖し、慈善活動の宣教師達はミッション・コンプレックスに移転しました。

FRANCISCAN SISTERS HOUSE

385 E CORDOVA ST (CIRCA 1887)

バンクーバーで一番古い家であると言われるこの建物は、バンクーバーの最初の10人の地方議員の一人、トーマス・ドンが所有していました。そして1932年にカトリックの日本のミッションスクールのためのスペースを増やすためにフランシスカン・シスターズ・オブ・ザ・アトーンメントによって購入され、ミッションコンプレックスの一部として残されています。



STOP 11: OPPENHEIMER PARK

400 BLOCK OF E CORDOVA ST

Powell通りとDunlevy通りの交差にあるPowell Street Groundsは、このエリアに住んでいた人にとって常に重要な公共スペースでした。公園は1898年に正式に開かれ、最終的にはバンクーバーの2番目の市長、デイビッド・オッペンハイマーからその名をとって命名されました。ここはスポーツが行われ、祭りが行われた社交場でした。パウエル・ストリート・グラウンドはまた、バンクーバー朝日野球チームのホームフィールドでした。

1930年代の深刻な経済不況の中で、公園は疎外された失業者が話し合いをする場所となり、また労働条件プロテストの出発点でした。最もよく知られているのは、1935年の春に行われたOn To Ottawa Trekでした。1936年10月、オッペンハイマー・パークは、政治的、宗教的およびその他の見解が公然と認められた唯一の公園と宣言されました。

カナダ初の公式移住者の到来百周年を記念する1977年の祭典の一環として、隣組(日本人社会ボランティア協会)の音頭のもと、移民一世(日系移住者の第一世代)が21本の桜の木を植樹しました。2008年には、オッペンハイマー公園の改築が計画され、数々の記念樹が引き抜かれようとしていました。いくつかの日系カナダ人団体は、伝統のサクラを救おう連合と呼ばれる特別委員会を通じ抗議行動を起こし、1977年の記念樹は引き抜かれず、救われました。

毎年春には多くの遺贈されたサクラが咲き、公園利用者は今でも楽しむことができます。現在、公園は地域住民の多様で複雑なニーズに対応しています。伝統的な公園の利用に加えて、8月の長期休暇にここで祝われるパウエルストリートフェスティバルを含む、さまざまなコミュニティー活動のための社交場として活用されています。



**MING SUN -
UCHIDA BUILDING**
437-441 POWELL ST
(1891)

この建物はヨーロッパ住民を抱えるラス・ハウス・ホテルとして始まりました。1902年、ウチダ・チヨシチとキヌ夫妻がこの物件を購入し、寄宿舎に改装しました。小売スペースは、タバコ屋や食料品店として長年賃貸されて

いました。1910年から1912年にかけて建物内にプールホールがありました。1930年代には、ウチダ家の息子、医師のマタサブローが建物内で医療行為を開始しました。1980年代に再建された西に隣接する建物は、もともとこの場所が栄えていた1890年の外観を復元して作られました。2013年には建物東部(若林豆腐店)が解体され、内田ビルのレンガのファサードが解体されました。2018年現在、建物の今後は不確実なままです。

地域の豆腐製造について

CVA 1184-1545, 1942



大豆で作った高蛋白質の日本食代表である豆腐は、しばしばパウエル通りに沿って製造販売されていました。若林豆腐(439.5 パウエル通り)のような豆腐の生産同業者が裏道にひしめきあっていました。

「毎日約50個豆腐を作り、それぞれ約5セントで売っていましたが、その後毎日、売り上げは上がりました。そして1941年までに、毎日250個豆腐を作り、それぞれ10セントで売れるようになりました。」

- Bud Tanaka, neighbourhood resident, from Open Doors Project (441 Powell St)



STOP 12: MACDONALD-MCCRAE HOUSES

230-248 JACKSON AVE (1905)

ジャクソン・アベニュー230,236,242、および248に建つ4軒のエドワード様式の家屋は、不動産開発に携わっていたビジネスパートナーDavid MacDonaldとWilliam McRaeの妻であるAlexandra MacDonaldとAmy MacDonaldのために建てられました。これらの2階半建ての木枠の家には、正面の三角屋根やドーム付き寄棟屋根、バルコニー、外壁、隠し破風、木製の軒裏等の遺産指定建物の多くの特徴が残されています。

キタ服飾学院

NNM, Our Mothers' Patterns, May 1939



日系カナダ人家族の多くにとって、服飾は重要な収入源でした。248 ジャクソン通りではキタ服飾学院がキタ夫人によって運営されていました。彼女の生徒の一人、タケベ・ケイ・ネー・シモダは、日本のコミュニティにとっての裁縫の重要性について語っています。ケイはキタ夫人の他6名の女子と一緒に住み、1930年に学校を卒業しました。彼女は1931年にニューウェストミンスターで服飾店を開き、1942年に強制疎開するまで営業しました。「高校ではなく、縫製学校に行きました。日本人は、看護師や教師になることは許されませんでした。街角には沢山の服飾店があり、ほとんどは日本人がやっていました。缶詰工場やハウスキーパーとして働くこと以外に日本人ができる唯一の仕事だったからです。朝起きたら、朝食、昼食、夕食を当番制で作りました。夕食後は、真夜中まで針仕事をします。当時の唯一の楽しみが、それだったのです。」

— タナベ・ケイとスーザン・ミチ・シロバックの談話、日系博物館、1996年6月

13



**STOP 13: JAPANESE METHODIST CHURCH /
VANCOUVER BUDDHIST TEMPLE**
220 JACKSON AVE (1907 & 1979)

1907年、日本メソジスト教会は日本メソジスト使節によってここに建てられました。1920年には、若者にアピールする為、体育館とスイミングプールが追加されました。メソジスト教会がカナダユナイテッド教会に加わった後の1925年に、この教会は日本ユナイテッド教会になりました。1年後にシミズ・コウサブロウ牧師がこの場を引き継いだとき、彼は英語の儀式運びと、友人のシモタカハラ医師と共同で無料診療所の設立、そしてBC州内における他地域への拠点運営にと尽力しました。強制疎開期間中には、ヘイスティングス・パーク・クリアリング・ステーションと収容病院に閉じ込められた人々、そして移動待機していた人々に快適さと保険医療を提供するために彼が呼ばれました。

バンクーバー最初の仏教寺院は、1904年にアレキサンダー通り32番地に建てられました。1933年にコルドバ通り604番地に新しい寺院が建てられましたが、1942年に没収されました。この敷地は1954年にバンクーバー仏教寺院に購入され、現在の建物は1979年に建立されました。



STOP 14: VANCOUVER JAPANESE LANGUAGE SCHOOL & JAPANESE HALL

475 ALEXANDER ST (1928)

1906年、バンクーバー日本語学校および日本人会館(VJLS-JH)は当初アレキサンダー通り439番地に設立されました。1919年にコミュニティが成長し、日系カナダ人の子供の多くが正規のカナダの公立学校に通うようになったため、包括的なカリキュラムを教えるよりも日本語の指導だけに焦点を当てるようになりました。子どもたちは平日に公立学校に英語で通い、土曜日には日本語と日本文化についてバンクーバー日本語学校に通って学んでいました。VJLS-JHは、1928年にシャープ&トンプソン建築が設計したアレキサンダー通り475番地にあるこのスペイン教会リバイバル風デザインのビルに、学校とカルチャーセンターの両方として機能するよう、拡張されました。

VJLS-JHは、強制疎開時に没収された日系カナダ人の財産のうち、疎開後に持ち主に返却された唯一の例です。1942年から1949年の間、カナダ軍が施設の半分を軍の管理部門と計画部門に使い、残りの半分の戦費を支払うために売却しました。売却を逃れた部分があったために返却要求が通り、VJLS-JHは元の建物の半分になりましたが1953年に運営を再開できることになりました。

今日まで、VJLS-JHは、日本語、文化、芸術の学習とプロモーションに専念してきました。2000年には、多文化教育の中心地としての役割の拡大に対応するために、VJLS-JHは1928年に建てられた建物の入り口をタイル張りにしたりと、大きな拡張を開始しました。



DALES HOUSE-
414 ALEXANDER ST
(1889)

この家はバンクーバーの最も古い建物の一つで、大工のThomas John Dalesのために建てられました。ヘイスティングス・ミルに近接しているため、アレクサンダー通りは市の中でも一番先に水道がひかれた地区であり、家が立ち並びました。この通りは日本人移民にとって重要な住宅街

になり、この住所は1911年までに日本人移民によって賃貸されました。1927年には山崎磯吉が買い取ったことからわかるように、1920年代に日系カナダ人コミュニティの繁栄を証明する事柄として、多くの個人が賃貸から不動産所有者となりました。

この建物は、その時代背景、規模、サイズ、希少性どれをとってもバンクーバーに残された貴重な建物です。この家の記録写真は今日の残っている構造とはまったく異なっており、高いビクトリア朝の飾りが取り除かれていることがわかります。家も基礎が高くなり、アスファルト板で覆われています。



CVA SGN-295

414 Alexander Street c. 1890

バンクーバー・ヘリテージ財団について

バンクーバー・ヘリテージ財団 (VFH) は、現在および未来の世代のために、街の歴史的な場所に対する感謝とその保全を促進しております。イベント、ツアー、講演会、ワークショップ、オンラインと印刷物を通じて、バンクーバーの歴史と遺産について学ぶ機会を作っております。VFH は助成金プログラムや他のリソースを用いて、歴史的建造物や場所を復元して皆様が楽しむことができるように力を注いでおります。

バンクーバー・ヘリテージ財団の詳細については、ウェブサイト vancouverheritagefoundation.org をご覧ください。



研究およびその情報源について

この地図ガイドは2009年にバンクーバー・ヘリテージ財団ジャパンタウン・バンクーバー地図ガイドをバンクーバー市と提携して作成した際のテキストを使用しています。また、オープン・ドア・プロジェクト、日系博物館によるパウエル通り歴史ウォーキング・ツアー、カナダ・コミュニティ・ストーリーによるバーチャル・ミュージアムからの最近の研究結果も含まれています。

謝辞

バンクーバー・ヘリテージ財団は、この出版物に必要な情報、コンサルティング、資料を提供してくださった日系博物館 & 文化センターに感謝の意を表明するとともに、バンクーバー日本語学校およびジャパニーズホールの翻訳を含む大きなサポートに感謝いたします。

スポンサー団体及び企業：



RR DONNELLEY

IMAGE CREDITS

All images (unless otherwise noted):

Martin Knowles Photo/Media

Archival images: City of Vancouver Archives, Nikkei National Museum, Katelyn Yuen and Jeanie Ow

Other map guides available:

Historic West Hastings Street

Historic Kitsilano Northeast

Historic Chinatown

Historic Chinatown (Chinese language)

Historic Japanese Canadian District (Paueru-gai) (Japanese language)

Mid-Century Modern Downtown

Carrall Street Greenway

Strathcona Markets

Mole Hill

- 1 pg 8 Komura Building
- 2 pg 8 SW Corner of Alexander St and Gore Ave
- 3 pg 10 NE Corner of Powell St and Gore Ave
- 4 pg 11 Morimoto & Co. Dry Goods
- 5 pg 10 Hotel Yebisuya
- 6 pg 11 Shibuya & Co. Clothing



バンクーバーにおけるこれらの日系カナダ人の歴史に関連する場所をぜひ訪問してみてください: 畜舎 (ヘイスティングスパーク) とケルティック缶詰工場 (ケルティック通りとブレンヘイム通りの交差する場所)

りの交差する場所)

VHFの行う Places That Matterプロジェクトは、バンクーバーの歴史の物語を伝える人々、場所、出来事についての意識を高めます。 vancouverheritagefoundation.org/places-that-matter

